

# ニューカマーの子どもたちへの教育支援

～神戸・姫路における活動を通して見えたこと～

環境人間学部 環境人間学科

准教授 <sup>いぬい みき</sup> 乾 美紀、 B3 <sup>ち ば ゆうすけ</sup> ◎千葉裕介、 <sup>しょうじよしたか</sup> 庄司舜孝、 <sup>ゆかみゆうき</sup> 由上友基、  
<sup>まつもとかなみ</sup> 松本佳奈実、 <sup>おだ</sup> 小田ひかる、 <sup>しゅ いあん</sup> 朱 怡安

## キーワード

ニューカマー、教育支援、多文化共生

## 研究概要

単一民族国家と言われてきた日本にも、現在では多くの新来外国人、すなわちニューカマーが定住している。主なニューカマーとして中国帰国者・日系南米人・インドシナ難民などが挙げられる。兵庫県は日本語指導が必要な外国人児童生徒数が802人と全国でも12番目に多い地域である。ニューカマーの子どもたちは言語や経済面などでハンディキャップを抱えており、学校での勉強についていけない現状がある。そこで私たち乾ゼミでは姫路市と神戸市においてニューカマーの子どもたちへの教育支援を手伝っている。以下がそれぞれの活動における取り組みである。

### ①花田中学校（姫路市）

姫路市にはかつてインドシナ難民の定住促進センターが設置されていた背景があり、元難民やその家族が定住している。中でもベトナム人の割合は高く、2015年時点で2,254人に及んでいる。姫路市の中でも花田地区はベトナム人が多く、その子どもは近くの花田中学校に通っている。しかし家庭的背景、言語的なハンディキャップにより学力は決して高いとは言えない。花田地区の歴史的・地域的背景に配慮した兵庫県は助成金を支給し、学力の低い生徒たちへの学習支援を行っている。私たちが実際に参加してみたところ、彼らは経済事情から塾に行けず学習機会が非常に少ないと実感したとともに、親の考え方や日本の教育システムといった周囲の環境が彼らの学力に強く影響しているのではないかと考えた。

### ②こうべ子どもにここ会（神戸市）

神戸市東灘区では1990年の出入国管理法改定以降、労働目的で移住してきた南米人（特にブラジル人）が急増した。にここ会は、ニューカマーの子どもたちへの日本語・教科支援の必要性が高まったことを機に設立され、多様な教育支援を行っている。この活動に参加して、私たちは彼らが日本語に疎遠な家庭環境に置かれていることを痛感した。また、子どもたちは語彙力が乏しいために文章が理解できず、どの教科も丸暗記してしまう傾向がある。その結果、応用問題が理解できず授業についていけないという悪循環に陥りやすいことが分かった。そのような悪循環から子どもたちを救い出すには学校、行政、NPO 団体が連携し、現在の教育システムが抱えるズレを是正していくことが必要不可欠であると認識した。

## アピールポイント

私たちが行っている上記2つの活動は学習支援のみを目的としておらず、ボランティア参加者と子ども間の信頼関係の構築に重点を置いていることが特徴である。これまで生徒と共に学び、考え、成長する姿勢を大切に、地域に密着し、そして彼らとの信頼関係を築きながら活動できていることが、ニューカマーの子どもたちへの教育支援の効果につながると信じている。